

藤本理事長の

くらで病院スタッフ
からの健康
アドバイスです

調子はいかが？

くらで病院 ☎ (42) 1231



ADVICE Health

前立腺肥大症の治療について

前月号では、高齢男性の排尿障害の主な原因である前立腺肥大症についてお伝えし、治療としては、生活習慣の見直し、内服薬、手術、カテーテル（管）の挿入があることをお話ししました。今回は、治療の中心である内服薬と手術についてお話しします。

どのような薬がありますか？

膀胱の出口または前立腺や尿道の筋肉を緩めることで、尿の通りをよくする薬が最もよく使われます。前立腺の縮小を期待する場合には男性ホルモンを抑えるホルモン剤もあります。その他、症状に応じて漢方薬や頻尿を抑える内服薬が使われます。症状の改善具合によっては内服を中止し、経過を見ることも可能ですが、通常は長期にわたって内服します。

薬の効果がない場合はどのような治療がありますか？

内服治療で効果がない場合には手術が勧められます。手術は内視鏡を用いて、尿道を圧迫している前立腺の肥大部分を取り除く、または蒸散させて尿道を広げます。

従来は電気メスで前立腺を削り取る手術が標準でしたが、出血が多く体への負担も少なくなりました。その後、レーザーを用いた手術ができるようになり、体への負担は少なくなりましたが、前立腺の大きさによる1時間〜2時間の手術になります。

高齢である場合やほかの病気がある場合でも手術は受けられますか？

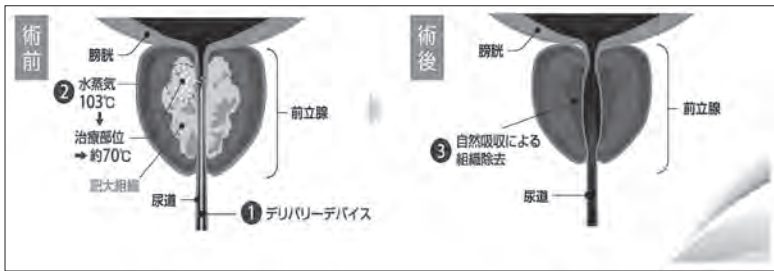
最近では身体への負担が少ない手術方法

が行われるようになりました。ひとつは、小さな器具で前立腺を吊り上げて尿道を広げる方法と、もうひとつは、前立腺に水蒸気を注入することにより、前立腺の細胞が徐々に広がって尿道が広がるという方法です（図）。高齢や糖尿病、心臓や脳血管障害などの合併症、認知機能障害などで手術や手術後のリスクが高く、従来は手術が困難な患者さんでも、

このような体に負担が少ない手術であれば受けることができる可能性があります。手術により、内服薬の中止、または減量することが可能である場合も多く、これも手術のメリットのひとつです。

最後に…

前立腺肥大症に対してはいろいろな治療法がありますので、自分に合った治療法でよりよい生活を送っていただきたいと思っています。ただ、膀胱の働きが悪い場合には、前立腺肥大症の治療を行っても排尿が改善しない場合がありますので、治療については医療機関でよくご相談ください。



藤本 直浩 ふじもと なおひろ プロフィール



1984年 鳥根医科大学医学部（現鳥根大学医学部）卒業
1984年 産業医科大学病院 臨床研修医、専修医（泌尿器科）
1985年 原三信病院へ出向・派遣
1987年 産業医科大学医学部泌尿器科助手
1990年 福島労災病院へ派遣
1996年 米国ウイスコンシン大学 Comprehensive Cancer Center
1997年 米国ロチェスター大学 George Whipple Lab for Cancer Research

1998年 北九州市立戸畑病院泌尿器科部長
2000年 産業医科大学泌尿器科学講座講師
2003年 産業医科大学医学部泌尿器科学講座助教授（現准教授）
2015年 産業医科大学医学部泌尿器科学講座教授
2018年 産業医科大学病院 がんセンター長
2020年 産業医科大学若松病院 病院長
産業医科大学病院 副院長
2024年 4月より地方独立行政法人くらで病院 理事長